

# ファンと一緒に「世界へ」

## グリムspanキー

豊丘村出身の松尾レミ(24)と飯田市座光寺出身の亀本寛貴(26)でつくるロックユニット「GLIM SPANKY」(グリムspanキー)が勢いに乗っている。このほど終了した初の全国ワンマン・ツアー「Next One TOUR 2016」は全公演がソールドアウトとなり、満員となった東京・新木場最終公演には幅広い年代の2400人が詰めかけた。熱気に包まれた会場で2人は「皆さんと一緒に世界に出たい」とさらなる飛躍を誓った。

会場を訪れてキャバの大きさに驚いた。映画『ONE PIECE E FILM GOLD』の主題歌「怒りをつくれよ」を手掛けたことで、知名度と人気が一躍的に高まったことは頭では理解していたが、2400人で埋め

尽くされた客席はまさに「ウッドストックの丘の上のような景色」(松尾)であり、「これまで存在になったか」というのが正直な感想だ。ファンが予想以上に幅広いことも驚きだった。若者に加え、

## ツアーファイナルに2400人



ツアーファイナルで (KAMIISAKA HAJIME 撮影)

洋邦のビンテージ・ロックを長く聴いていることが風貌からうかがえる、本物志向の40代が実に多いのだ。ライブはヒットした最新アルバム『NEXT ONE』で始まると、高校時代に作った『焦燥』、ドラマ主題歌『褒めろよ』とアップテンポな曲が続き、会場は序盤から熱気を帯びた。ロックやブルースの魅力を堪能できるイン



グリムspanキー (KAMIISAKA HAJIME 撮影)

ディーズ時代の代表曲や近作、松尾が故郷の風景を思い浮かべながら作ったという『風に唄えば』話をしよう』も演奏し、この夏全国で鳴り響いた『怒りをつくれよ』で会場のボルテージは最高潮に達した。関係者が「前回のコンサートからわずかな期間で大きく成長した。来年に向かってさらに大きくなっていくと思ろ」とたたえた通り、ライブパフォーマンスは圧巻という言葉がふさわしいものだった。2人はこの日、高校時代から思い描いていたという「日本を誇りに、日本語でロックをやって世界に出たい」という夢を語り、「だったら、まずはここ(日

本)で天下を取らない」と口をそろえた。高校・大学時代を通して大人から「音楽で食べるのはありえないこと」「雲をつかむような話」と言われ、それらをバネにしてきたというハングリーな部分がちなる2人だが、この日印象的だったのは、応援に対する感謝の気持ちもまた強く、ファンとともに飛躍したいと考えていることだ。亀本は「達成感をかみ締めている時間もなくなっていくが、応援されると間違っていないと感じ、もっともつと頑張りたいという気持ちになる」、松尾は「集まるのはいい人ばかり」と語り、「みんなも仲間。台風の目を大きくくしたい」「(亀本)皆さんと一緒に世界に出たい(松尾)と語り掛けた。(K)